令和７年　シラバス

第２学年
普通科
研志コース（キャリア・看護・保育）

鳥取城北高等学校

科目名	論理国語	授業時数	週　3　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	キャリア

目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，言語感覚を磨き，進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ，文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に，創造的に考える力を養い，伝え合う力を高めて，自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え，客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ，文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的，批判的に考える力や創造的に考える力を養い，伝え合う力を高めて，自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し，客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また，文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために，積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し，学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察　定期考査・小テスト　課題提出　漢字テスト	授業態度の観察　定期考査・小テスト　課題提出　作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編　論理国語』

大修館書店『新編　論理国語　学習ノート』

桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』

浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習・ペア学習

科目名	論理国語	授業時数	週　3　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	保育

目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，言語感覚を磨き，進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ，文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に，創造的に考える力を養い，伝え合う力を高めて，自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え，客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ，文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的，批判的に考える力や創造的に考える力を養い，伝え合う力を高めて，自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し，客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また，文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために，積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し，学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察　定期考査・小テスト　課題提出　漢字テスト	授業態度の観察　定期考査・小テスト　課題提出　作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編　論理国語』

大修館書店『新編　論理国語　学習ノート』

桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』

浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習・ペア学習

科目名	論理国語	授業時数	週　3　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	看護医療

目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，言語感覚を磨き，進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ，文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に，創造的に考える力を養い，伝え合う力を高めて，自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え，客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A	わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ，文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的，批判的に考える力や創造的に考える力を養い，伝え合う力を高めて，自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し，客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B	できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また，文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために，積極的に学習活動に参加する。
	C	する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し，学習意欲を持つ。
評価方法			授業態度の観察　定期考査・小テスト　課題提出　漢字テスト	授業態度の観察　定期考査・小テスト　課題提出　作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	1論理と出会う 2具体と抽象 3対比をとらえる
2学期	4主張をつかむ 5論理的に書く—小論文① 6統計資料を活用する
3学期	7比べて読む 8レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編　論理国語』

大修館書店『新編　論理国語　学習ノート』

桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』

浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習・ペア学習

科目名	公共	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	（探究）

目標	現実社会の諸課題の解決に向け，自己と社会とのかかわりをふまえ，社会に参画する主体として自立することや，他者と協働して，よりよい社会を形成することなどについて考察することができる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現実社会の諸課題について理解できるとともに，諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現実社会の諸課題について，事実を基に多面的・多角的に考察したり，公正に判断したりする力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に，現実社会の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとすることができる
	A	わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し，まとめることができる	現実社会の諸課題について，多面的・多角的に考察し，公正に判断し，議論することができる。	現実社会の諸課題について，考察し，主体的に解決しようとすることができる
	B	できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに，様々な情報をもとに，調べることができる	事実を基に考察し，公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について，自らの知識を通して，主体的に理解しようとすることができる。
	C	する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	現実社会の諸課題に対して，主体的に理解しようとすることができる。
評価方法			・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	第１編　公共の扉 第２編　第1章法的な主体となる私たち
2学期	第２編　第２章　政治的な主体となる私たち 第２編　第３章　経済的な主体となる私たち
3学期	第３編　持続可能な社会づくりとなる私たち

何で学ぶか(教材)

高等学校新公共（第一）

高等学校新公共準拠ワーク（第一）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペアワーク

グループワーク

ディスカッション

科目名	数学Ⅰ	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	

目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	応用問題において問題の意図を適切に理解し，公式を応用して解くことができる。	事象を多面的に深く理解し，他者に的確に説明することができる。	様々な分野の考え方を取り入れて解答することができる。
	A わかる	標準問題において適切な公式を選択し，解くことができる。	１つ１つの考え方の根本を理解し，思考のイメージを持ちながら問題を解くことができる。	自ら問題を解き，わからないときは他者に聞いたり調べたりして解答することができる。
	B できる	基本的な公式を，教科書・参考書を用いながら解くことができる。	適切な用語・記号を使い，論理的な解答することができる。	問題の類題の解答や，解説などを参考に，問題を解くことができる。
	C する	解答，解説を参考にしながら，類題を解くことができる。	問題文の意味を理解し，解答解説を参考にしながら解答することができる。	与えられた課題に取り組み，期限内に提出物を提出することができる。
評価方法		授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	数と式 1次不等式 集合と命題
2学期	2次関数
	三角比 正弦定理，余弦定理
3学期	場合の数と確率

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版　最新数学Ⅰ』
数研出版『改訂版　最新数学A』
数研出版『パラレルノート数学Ⅰ＋A』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	生物基礎	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	

目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。 実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。 実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることもとに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート 実験，観察，レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験，観察，レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験，観察，レポート等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	第１章　生物の特徴 第２章　遺伝子とそのはたらき
2学期	第３章　体内環境と恒常性
3学期	第４章　植生の多様性と生態系

何で学ぶか(教材)

第一学習社 高等学校新生物基礎(711)

第一学習社 ネオパルノート生物基礎

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習

実験，実習

グループ活動

科目名	体育	授業時数	週　3　単位	2　学年
		コース・学年	研志　コース	保育・幼児教育系進学

目標	各種運動の合理的な実践を通じて，運動技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また，体の調子を整え，体力の向上を図り，公正，協力，責任などの態度を育て，生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し,プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り,考察し,自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし,集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し,またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し,基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	体つくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	保健	授業時数	週　1　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	保育・幼児教育系進学

目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること，社会生活における健康の保持増進には環境や食品，労働などが深くかかわっていることを理解する。また，自らの行動を振り返り，自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し，自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え，実行することができる。
	A わかる	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	自身の現状を適切に把握し，用途に応じて，適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち，自他の健康について考えることができる。
	B できる	健康の保持増進には，個人的要素だけでなく，社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い，分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	思春期と健康，性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康，避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2学期	中高年期と健康，医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3学期	大気汚染と健康，水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備，食品の安全を守る活動 働くことと健康，働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店
『最新高等　保健体育[改訂版]』
大修館書店
『最新高等　保健体育ノート[改訂版]』
プリント
クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
調べ学習

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週　4　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	キャリア分野

目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し，相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ，内容を的確に理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし，情報や考えなどを理解したり，概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し，他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	基本的な英文を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを理解できる。	事実と意見などを区別して，理解したり伝えたりすることができる。	できないところを人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	C する	モデル文を真似て読んだり書いたりすることができる。	平易な単語を置き換えて，パターンプラクティスすることができる。	授業に臨むための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・プレゼンテーション

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	Lesson1　Place Worth　Visiting Lesson2　Iwago Mitsuaki: Animal Photographer
2学期	Lesson3　The Haka Lesson4　Digital Detox Lesson5　Goal Setting
3学期	Lesson6　The High School Hair Salon Lesson7　You Can Make a Difference

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication Ⅰ COMET ベーシックノート COMET 基本文法定着ドリル COMET 英単語 LEAP Basic 必携英単語

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週　4　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	保育 幼児教育系進学

目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し，相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ，内容を的確に理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし，情報や考えなどを理解したり，概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し，他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	基本的な英文を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを理解できる。	事実と意見などを区別して，理解したり伝えたりすることができる。	できないところを人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	C する	モデル文を真似て読んだり書いたりすることができる。	平易な単語を置き換えて，パターンプラクティスすることができる。	授業に臨むための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・プレゼンテーション

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	Lesson1　Place Worth　Visiting Lesson2　Iwago Mitsuaki: Animal Photographer
2学期	Lesson3　The Haka Lesson4　Digital Detox Lesson5　Goal Setting
3学期	Lesson6　The High School Hair Salon Lesson7　You Can Make a Difference

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication Ⅱ
COMET ベーシックノート
COMET 基本文法定着ドリル
COMET 英単語
LEAP Basic 必携英単語

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週　4　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	看護医療福祉分野

目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し，相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ，内容を的確に理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし，情報や考えなどを理解したり，概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し，他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	基本的な英文を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを理解できる。	事実と意見などを区別して，理解したり伝えたりすることができる。	できないところを人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	C する	モデル文を真似て読んだり書いたりすることができる。	平易な単語を置き換えて，パターンプラクティスすることができる。	授業に臨むための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・プレゼンテーション

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	Lesson1　Place Worth　Visiting Lesson2　Iwago Mitsuaki: Animal Photographer
2学期	Lesson3　The Haka Lesson4　Digital Detox Lesson5　Goal Setting
3学期	Lesson6　The High School Hair Salon Lesson7　You Can Make a Difference

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication Ⅱ COMET ベーシックノート COMET 基本文法定着ドリル COMET 英単語 LEAP Basic 必携英単語

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	商品開発と流通	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	キャリア

目標	商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，ビジネスを通じ，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*	使える	商品を企画・開発し，流通させるために必要な技術，商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け，活用することができるか。	商品開発に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに，ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断できる。	商品活動に関する諸活動を主体的に考える，実践的な態度を身に付けているか。
	A	わかる	顧客満足を実現することの重要性について理解しているか。	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して，思考を深めているか。	消費者の視点に立った商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。
	B	できる	商品開発に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	商品開発について関心を持って取り組むことができる。
	C	する	商品開発に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法			授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	商品の多様化 商品開発の意義と手順 環境分析
2学期	商品開発の意思決定と開発テーマの決定 市場調査 商品コンセプトの立案と商品企画書の作成
3学期	商品の仕様と詳細設計 試作品の作成と評価 開発商品のテスト 事業計画の立案

何で学ぶか(教材)

教科書
　商品開発と流通　実教出版
問題集
　商品開発と流通　実教出版

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式
グループ活動

科目名	ビジネスマナー	授業時数	週２単位		２学年
		コース・学年	研志　　コース		キャリア探究

目標	将来必要となるビジネスマナーの知識と技術の基礎を身に付ける。自分が将来社会の一員となることを自覚したうえで，自らの進路選択について適切に判断する力と自分を表現する力を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解し，技術を発揮できる。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し，創造的に解決することができる。	社会に出るうえで何が必要か考え，実行することができる。
	A わかる	ビジネス社会の常識やビジネスマナーの基本について理解することができる。	新入社員が出会うことが多い問題について，正しい応対をすることができる。	ビジネスについて関心を持ち，自他の健康について考えることができる。
	B できる	組織の一員として身に付けておきたい態度や心構えがあることを知っている。	適切な用語・記号を使い，分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	会社や組織の仕組みを理解することができる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		ノート，ロールプレイングでの体験学習	ノート, ロールプレイングでの体験学習，グループ活動	ノート, ロールプレイングでの体験学習，グループ活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	テキスト「ビジネスマナー」
2学期	テキスト「ビジネスマナー」 ロールプレイングでの体験学習
3学期	テキスト「ビジネスマナー」 ロールプレイングでの体験学習

何で学ぶか(教材)

テキスト「ビジネスマナー」

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，問題演習 ロールプレイングでの体験学習

科目名	一般教養演習	授業時数	週２単位		２学年
		コース・学年	研志　　コース		キャリア探究

目標	就職試験に向けて様々な検定などを用いながら，実社会で活用できる表現力，一般常識の向上を図り，自身のキャリアプランの形成の一助とする。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	現代社会のできごとを多角的・公正に理解・判断し，その課題を解決するための総合的な力を身に付けている。	現代社会のできごとに関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	現代社会の課題を解決するためには何が必要か考え，実行することができる。
	A わかる	ニュースを読み解き，活用する力を身に付けている。	現代社会についての思考を深め，事象を複合的に考察することができる。	日々変化する現代社会について関心を持ち，自他の健康について考えることができる。
	B できる	現代社会の成り立ちや仕組み，諸外国との関係について理解している。	適切な用語・記号を使い，分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	公民分野の重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		ノート，過去問題の正答率	ノート, グループ活動	ノート, グループ活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
１学期	ニュース検定公式テキスト問題集
２学期	ニュース検定公式テキスト問題集
３学期	ニュース検定過去問題 ニュース検定受験（2月）

何で学ぶか(教材)

ニュース検定公式テキスト問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，問題演習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週4単位		2学年
		コース・学年	研志　　コース		キャリア探究

目標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S　使える	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を見いだしている。	情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだしている。	企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	A　わかる	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を説明できる程度に確実に身に付けている。	情報処理の意義と課題について理解するとともに、企業活動との関連について説明できる程度に理解している。	企業における情報処理について自ら積極的に学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
	B　できる	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて理解している。	企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C　する	教科書によって、企業における適切な情報処理についてまとめ、関連する技術の習得に努めている。	教科書によって、情報処理の意義と課題についてまとめ、理解に努めている。	企業における情報処理について自ら学ぼうとし、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む態度の習得に努めている。
評価方法		実技テスト 小テスト	実技テスト 小テスト	小テスト 実技テスト 検定試験

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	コンピュータの応用的な仕組みや働きを理解。高度な関数の働きを理解及び図形作成。
2学期	全商情報処理検定の模擬問題を学習し、必要な技法・知識を定着する。
3学期	全商情報処理検定3級を受検する。全商情報処理検定2級の基本的な表計算ソフトウェアの活用方法を学習する。

何で学ぶか(教材)

全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版）

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義(PC1人1台)、グループワーク，ペアワーク，課題

科目名	簡易ソフト	授業時数	週2単位		2学年
		コース・学年	研志　　コース		保・幼教

目標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を見いだしている。	情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだしている。	企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	A わかる	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を説明できる程度に確実に身に付けている。	情報処理の意義と課題について理解するとともに、企業活動との関連について説明できる程度に理解している。	企業における情報処理について自ら積極的に学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
	B できる	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて理解している。	企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C する	教科書によって、企業における適切な情報処理についてまとめ、関連する技術の習得に努めている。	教科書によって、情報処理の意義と課題についてまとめ、理解に努めている。	企業における情報処理について自ら学ぼうとし、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む態度の習得に努めている。
評価方法		実技テスト 小テスト	実技テスト 小テスト	小テスト 実技テスト 検定試験

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	コンピュータの応用的な仕組みや働きを理解。高度な関数の働きを理解及び図形作成。
2学期	全商情報処理検定の模擬問題を学習し、必要な技法・知識を定着する。
3学期	全商情報処理検定3級を受検する。全商情報処理検定2級の基本的な表計算ソフトウェアの活用方法を学習する。

何で学ぶか(教材)

全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版）

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義(PC1人1台)、グループワーク, ペアワーク, 課題

科目名	保育実践	授業時数	週　4　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	保育・幼児

目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し，乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②保育実習を通して乳幼児の特徴を理解し、学習した知識と技術を実践することができる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*	使える	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し，発達段階に応じたかかわりをすることができる。	作品づくりや園児との交流を通して，子どもが関心を抱くものを見いだし，発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心をもち，子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ，主体的に作品づくりに参加し，子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A	わかる	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりや交流を通して，子どもが関心を抱くものを見いだし，表現方法を身につけている。	保育に対する関心をもち，子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B	できる	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものにい関しての基本的な知識を身につけている。	作品づくりや交流を通して，子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加し，子どもに関わることができる。
	C	する	作品作りや実習の基本的な知識や技術を身につけている。	作品づくりや交流を通して，子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	実習にふさわしい準備ができている。
評価方法			授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	幼稚園実習 作品製作・園児との交流
2学期	幼稚園実習 作品制作と発表会実践
3学期	幼稚園実習

何で学ぶか(教材)

保育実践

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
実習
講演
グループ学習
作品制作

科目名	保育基礎	授業時数	週　２　単位	２　学年
		コース	研志　　　コース	保育・幼児
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し，乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち，子どもに関わる意欲や能力，実践的な態度を身につける。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S　使える	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し，発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだし，発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心をもち，子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ，主体的に作品づくりに参加し，子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A　わかる	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだし，表現方法を身につけている。	保育に対する関心をもち，子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B　できる	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものにい関しての基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加し，子どもに関わる意欲を身につけている。
	C　する	作品作りや実習の基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
１学期	幼稚園実習 子どもの保育 （発達と乳幼児期の意義・発達と保育環境・児童観と発達観）
２学期	作品制作と発表会準備 子どもの発達 （子どもの発育・神殿の精神発達・人間関係の発達）
３学期	作品制作と発表会実践 子どもの生活 （生活と養護・子どもの遊び）

何で学ぶか(教材)

保育基礎（教育図書）
学習ノート
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
実習
講演
グループ学習
作品制作

科目名	音楽演習	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　　コース	保育・幼児教育系進学

目標	保育・幼児教育で取り扱う教材や, それらを展開するために必要なピアノ演奏技術の基礎を身に付ける。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	大譜表の読み方を理解し, 正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポで演奏することができる。	目標を設定し, 到達できるまで繰り返し練習することができる。
	A わかる	正しい姿勢と運指で両手の演奏することができる。	メトロノームに合わせ, 正しいリズムで演奏することができる。	練習したことを他と聴きあい, 互いに評価ができる。
	B できる	正しい姿勢と運指で片手ずつの演奏することができる。	楽譜の読み方と鍵盤の位置を理解することができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習することができる。
	C する	電子ピアノの使用方法を理解できる。	ピアノ演奏練習の必要性を理解し, 興味を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業 実技テスト	授業 実技テスト	授業 実技テスト

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	全訳バイエルピアノ教本 P10～27
2学期	全訳バイエルピアノ教本 P28～37
3学期	全訳バイエルピアノ教本 P39～41

何で学ぶか(教材)

全訳バイエルピアノ教本
（全音楽譜出版社）

どのように学ぶか(授業方法など)

個人・ペア練習
1ページごとにチェック

科目名	自己表現	授業時数	週　2 単位	2 学年
		コース	研志　コース	看護医療福祉

目標	自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び，医療・福祉職で働く上での資質向上を図りつつ，受験に必要な表現する力を高める。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ，意見交換から考えを深め，自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	A わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め，意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	B できる	自分の知識や体験に基づいて，要求される制限を満たしつつ，自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができている。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度，読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装）
評価方法		授業，定期考査，発表	授業，定期考査、発表、提出物	授業，提出物，発表

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度，時間は30秒，40秒），新聞記事を使った意見文（結論→根拠の展開），テーマ型意見文（400字，600字），課題文要約
2学期	川柳（夏休みを短く切り取る），課題文要約、テーマ型意見文・テーマ型小論文，医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事・出前授業について気付きや感想をまとめる，短歌（2種類），スピーチ
3学期	スピーチ（1分間）、テーマ型小論文、課題文型小論文，医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる，校外体験学習での気付き・感想をまとめる

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材，日本経済新聞をはじめとした記事，医療と安全管理総集版（ニホンミック），専門学校・大学の過去問題，専門学校の出前授業，職業体験，講演・講座

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク，ペアワーク，課題，講演，各種医療体験

科目名	看護医療研究	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　コース	看護医療福祉
目標	看護医療福祉の各分野の基礎的事項を横断的に理解し，チーム医療に対する基本的な考え方を身に付け，また他者を思いやり尊重する態度を養う。医療福祉従事者としての心構えを身に付けると同時に，必要とされる資質や知識・技術を身に付け高める。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	看護・医療・福祉の各分野に関する知識を身につけ，その意義や社会的役割を理解し日常生活に応用を図ることが出来る。	様々な体験を通し，各分野で求められる資質を理解し，習得した基礎的な技術の他者への応用を図ることが出来る。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち，疑問の解決や資質の向上を目指し率先して能動的に取り組むことができる。
	A わかる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ，その意義や社会的役割を理解している。	様々な体験を通し，各分野で求められる資質を考え理解し，基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち，疑問の解決や資質の向上を目指し意欲的に取り組むことができる。
	B できる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ，その意義や社会的役割の理解に努められる。	諸体験を通し，各分野に求められる資質を考え，それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち，疑問の解決に意欲的に取り組むことができる。
	C する	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	諸体験を通し，各分野に求められる資質を理解し，深めようとできる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持つことができる。
評価方法		授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	職種調べ 【地域包括ケアシステム・老年体験等】 専門学校出前講座(岡山医療福祉専門学校) 専門学校出前講座(洛和会京都厚生学校)
2学期	鳥取看護大学連携授業 認知症サポーター養成講座 医療従事者による講和 看護医療福祉時事研究Ⅰ
3学期	受験指導 赤十字救急法基礎講習受講（資格取得）

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材
授業プリント
映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義
グループ活動
体験実習

科目名	看護基礎	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　　コース	看護医療福祉

目標	医療看護を取り巻く現状や基礎的知識・技術を学び，医療従事者を目指すうえで必要な資質の体得と向上を図り，進学への動機づけにつなげる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，その知識・技能を適切に理解・活用している。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め，基礎的な知識と技術を基に，看護医療に携わる者として適切に判断し，表現する創造的な能力を身に付けている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち，その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに，実践的な態度を身に付けている。
	A わかる	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，医療看護の意義や役割を理解している。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め，基礎的な知識と技術を基に，看護医療に携わる者として適切に判断し，表現することができる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち，その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに，実践的な態度を身に付けている。
	B できる	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め，基礎的な知識と技術を基に，看護医療に携わる者として適切に判断できる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち，その改善・向上を目指して主体的に取り組むことができる。
	C する	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけようとしている。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め，基礎的な知識と技術を基に，看護医療に携わる者として適切に判断し，表現しようとしている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち，その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法		授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
1学期	オリエンテーション 医療看護を取り巻く社会背景 看護・健康・人間　定義の明確化 看護と倫理
2学期	保助看法における看護の役割 診療と看護 理学療法士と作業療法士について 地域医療における多職種連携
3学期	対象別看護 看護とコミュニケーション 看護と記録

何で学ぶか(教材)

パンフレット（看護協会、鳥取県） オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習 インタビューによる情報収集

科目名	化学基礎	授業時数	週　２　単位	２　学年
		コース	研志　　　コース	看護医療

目標	日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化への関心を高め，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	化学に関する事物・現象について，基本的な概念・原理・法則を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。提出課題を期限内に提出しその質も高い。
	A わかる	化学に関する事物・現象について，基本的な概念・原理・法則を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることもとに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。提出課題を期限内に提出する。
	B できる	化学に関する事物・現象について，基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。提出課題を提出する。
	C する	化学に関する事物・現象について，基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。提出課題を提出しようとする態度が見られる。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート レポート　等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート　等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート　等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　　習　　内　　容
１学期	序章　化学と人間生活 第１章　物質の構成
２学期	第２章　物質と化学結合 第３章　物質の変化 　１節　物質量と化学反応式 　２節　酸と塩基
３学期	第３章　物質の変化 　３節　酸化還元反応

何で学ぶか(教材)

第一学習社『高等学校新化学基礎』
第一学習社『ネオパルノート化学基礎』
演習プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習
実験，実習
グループ活動

科目名	論理・表現Ⅱ	授業時数	週　2　単位	2　学年
		コース	研志　　　看護・大学進学	

目標	3つの領域別の言語活動や複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して，発信能力の育成をするとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら，伝える能力を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	文法内容を正しく理解しており，その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して，場面・目的・状況に応じた話題について，的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり，読んだりしたことを活用し，情報や考えを話したり，書いたりして表現することができる。
	A わかる	言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており，聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり，読んだりしたことを活用して，自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して，言語の持つ役割や文化的背景を理解し，相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	B できる	英語の文化的背景を理解し，実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて，その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり，またコミュニケーションを持つことができる。
	C する	英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり，聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが，自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや，文化的背景に気づき，コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法		授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	現在完了形・過去完了形・未来を表す表現 助動詞表現(used to, shouldなど) 助動詞＋have＋過去分詞・be動詞＋to不定詞 受動態・不定詞
2学期	不定詞 知覚動詞・使役動詞 動名詞・分詞構文・with＋O＋分詞 比較
3学期	関係代名詞、関係詞副詞 仮定法 否定の表現・代名詞を使った表現 無生物主語構文・thatを使った表現

何で学ぶか(教材)

三省堂「MY WAY Logic and Expression Ⅱ」

どのように学ぶか(授業方法など)

タブレット教材 グループ学習，ペア学習 個別学習